

よ 横文字にしたがる癖は治らない

最近、久しぶりにお声がかかって参加した公式の会議で「まちづくりの理念」として示されたのが「シビックプライド」「シティブランド」「ウエルネス・ユニバーサル・スマート」「ウォークアブル」「グリーン」「レジリエンス」だった。まあ、仕事柄これらのキーワードについてはなんとなくわからないでもないのだが、これだけ連ねられるとどうなのだろうと思ってしまう。まちづくり計画は基本的に関係する市民や住民や企業が理解し共感を得られるものでなければならぬと思うのだ。果たしてこれらのキーワードがどれだけ理解できるのだろう。

これらのなかには国によつて重要施策のキーワードとして使われたことから多くの自治体が右へ倣えて使っているものも多い。「ウォークアブル」つて「歩行可能」範囲とかで使うことはあつても「歩きたくなる」とか「歩いて楽しい」ことを指すと言われても「？」と思つてしまう。「レジリエンス」をこれまでの耐震化推進も包含し「強靱化」と言つてしまうのも違和感がある。まあ、そんなことにいちいち反応するのは、ちょっと時代についていくのがやつかいになつてしまつただけの「ご隠居症候群」かもしれないのだが。

思い返してみれば私の若い頃から「ウォーターフロント開発」とか「コールド・スタル・リゾート開発」など横文字が使われていた。横文字自体を全否定するほど「ご隠居症候群」が進んでいるわけではない。基本的には日本語に置き換えられない概念やモノなどに使うのであつて、都市計画やまちづくりで使われる横文字は日本語で表現してもなんら違和感がないものが多いような気がする。

それでも日本語に置き換えないのは、横文字がもつ「新奇」感の魔力がそうさせるのか。最近も「リノベーション」だとか「エリアマネジメント」「サステイナブル」などは日常用語になつている。ただ、内容的には歴史的に見てこれまでも取り組まれて来たことである。それが今こそそれが重要なのだと印象付けるために横文字にする。この「横文字にしたがる癖は治らない」と思うのだが、くれぐれも市民や住民などを置き去りにした業界の独りよがりにならないようにしなければならない。